

KAIT

カイト

神奈川工科大学広報誌
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

NO.205



2023年度 神奈川工科大学 学位記授与式・卒業式にあたって

2023年度 卒業生の各種表彰
卒業生へのメッセージ

課外活動紹介 KAIT eSports

大学院工学研究科

工学部・創造工学部・応用バイオ科学部・情報学部・健康医療科学部
研究室

Office information



部内での対戦から大会運営まで eスポーツを楽しんでいます！

部活動「KAIT eSports」

初心者でも気軽に始められて、しかも、奥が深いeスポーツ。興味がある方も多いと思います。本学公式eスポーツ部「KAIT eSports」の活動について、部長の小早川 唯志さん（工学部 機械工学科3年）とスマブラ*部門代表の座間 快斗さん（創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科3年）にお聞きしました。

■KAIT eSports 活動内容

部員数は約90名で、ゲームごとに6つの部門*に分かれて活動しています。スマブラ部門は部室を使いオフラインで活動しますが、その他の部門は各々自宅からオンラインで活動していて、部員同士で対決したり、X（旧Twitter）などを通して他大学と交流戦を行ったり、学外の大会にも参加しています。

また、12月から1月には「eFes」として、部門ごとに大会を開催しました。その最初の大会が、12月17日に学友会と合同で行った「KAIT BrawlingShowdown#1（大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL）」です。学内外から70名を超える参加者があり、多くの学生に楽しんでもらえ、手応えを感じました。

*ゲーム部門

スマブラ（大乱闘スマッシュブラザーズ）、シャドウバース、コール オブ デューティ、ヴァロラント、エーペックスレジェンズ、スプラトゥーン



KAIT BrawlingShowdown#1の様子。ここでは5組の対戦が行われています。

■本学新施設「KAIT TOWN eスポーツセンター」への思い

今年3月、キャンパス内に新設された「KAIT TOWN」内の「eスポーツセンター」については、昨年の夏に大学側から話があり「何が必要か、どんな配置したらいいか」などについて一緒に会議をしました。eスポーツセンターでは、これまでオンラインでやっていた活動が、対面でもできるようになるのですごく楽しみです。何よりここで大きな大会をやりたいです。

■自治体イベントへの協力

昨年は、かながわ国際ファンクラブの方から「Sports Festa」の企画・運営の協力依頼をいただきました。自分達も会議に参加して、どのゲームをやるか、トーナメントをどのようにするか、何をすれば参加者に喜んでもらえるかなどについて案を出しました。当日はeスポーツのブースを出展して、国籍年齢性別に関わらずeスポーツを通して交流していただくことができました。また、厚木市の「あつぎSDGsフェスティバル」にもブース出展しました。



<1年間の主な活動実績>

- ・ 幾徳祭に出展（対戦会、即興対戦など）
- ・ かながわ国際ファンクラブ「Sports Festa」企画運営の協力
- ・ 厚木市「あつぎSDGsフェスティバル」にブースを出展
- ・ 第6回工大サミット eSports大会出場
- ・ KAIT eSports イベント「eFes」の開催

<2023年 eSports大会での実績>

- ・ 「大学スマブラサークル春季リーグ」に参加 総合優勝
- ・ 「Shadowverse University League」に参加 ベスト8、16位など



KAIT TOWN

「KAIT TOWN（カイトタウン）」は、eスポーツセンター、および、地域連携・貢献センターのための施設です。eスポーツセンターには、情報学部と連携した教育・研究と本学学生の充実したプレイ環境を整備しています。



■小早川 唯志 部長

工学部 機械工学科 3年
部長としてはイベントの企画・運営に携わることで、学友会と協力してイベントを主催できたことが良い経験になっています。大学や部員からの期待に応えるという責任感、やはりこの部活を通して得られたと思っています。



■座間 快斗 スマブラ部門長

創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 3年
eスポーツ大会の運営をやってみて、大変だけど楽しく幸せでした。参加者は何がなんでも勝ちたいというわけではなく、ゲームやイベント自体を楽しみたいと思っているので、すごく居心地がいい空間ができているのではと感じています。



■北里 元 シャドウバース部門長

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年
5人1組のチームを組んで団体戦を行っています。昨年は、2チームに分かれて大会に参加し、ベスト8と16位という成績を残しました。一致団結して勝利できたときには、みんなで喜んで、喜びを共有している感覚がありました。



■大井 映真 スマブラ新部門長

情報学部 情報メディア学科 2年
去年の夏に、スマブラサークル連合の合宿に参加して、いろいろな大学の方と知り合ったり、対戦できたりしたことが印象に残っています。今は他の大学との連携で成り立っている活動が多いので、部内での独自企画も増やしていきたいと思っています。

KAIT eSports SNS (X 旧Twitter)



2023年度 神奈川工科大学 学位記授与式・卒業式挙行



社会へ巣立つ皆さんへ

学長
小宮 一三

はじめに、能登半島大地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

改めて、このたび学位記を授与された大学院修了生、学部卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。振り返れば長いコロナ禍の中、授業はオンライン中心、あるいはオンラインと対面の併用、サークル活動・クラブ活動の制限など、皆さんにとっては厳しい学生生活でした。友達と会えない、教員から直接指導を受けたいとの声も聞かれ、私も申し訳ない気持ちで一杯でした。ようやく平時に戻った中でこの日を迎えることができましたが、本日授与された学位記は厳しい環境を乗り越え、頑張り通した皆さんの努力の結晶です。是非誇りにしていただきたいと思います。そして何よりも今まで励まし、支えてくれたご父母、ご家族に感謝の気持ちをもって、第2のスタートを切ってほしいと思います。この間、教職員もオンライン授業の支援や迅速な感染対策など学生諸君が安心して学生生活を送れるよう全力で努めてきました。今日、皆さんの無事巣立つ姿を見て、教職員一同心より喜んでいるところであります。

今、社会は人工知能（AI）、人型ロボット、量子コンピュータ、医生命科学、高度医療技術など科学技術が急速に進展し、超スマート社会（ソサイエティ5.0）が実現しつつあります。特にICT分野では、生成AI、メタバース、Web3.0など革新的技術が登場しています。また、デジタル技術により社会システムの高度化を目指すDX（デジタルトランスフォーメーション）の流れも加速しています。一方、少子化・人口減対策、グローバル化の推進、カーボンニュートラルに代表される地球環境問題、SDGsの実現など多くの課題も抱えています。

このような変化の時代こそ若い皆さんの出番です。卒業後それぞれ進む道は違っても、本学で培った「技術に強く、人に優しい」KAITスピリッツを大いに発揮し、次世代を担う技術者、職業人として存分に活躍してほしいと思います。

幾徳学園神奈川工科大学は、昨年創立60周年を迎えました。この節目に本学の今後の進む方向を示す「KAITVision60」を策定し内外に宣言しました。Vision（ビジョン）のもと、「伝統を礎に未来をつくる大学」を長期目標として、教育、研究、地域連携・貢献に一層力を入れ、未来に向かい成長を続けていきます。是非、ホームカミングデイや幾徳祭などを利用し、気軽に大学へ遊びに来てください。私達教職員はいつまでも皆さんとつくる輪を大切にしたいと思っています。

結びに、皆さんのご健康とこれからの益々のご活躍をお祈りし、祝辞といたします。

2023年度

各種表彰

本学では、学業や課外活動等において優秀な成績を修めた学生を毎年、卒業式に表彰する独自の表彰制度を設けています。2023年度は以下の学生が表彰されました。

『成績優秀表彰』表彰者

工学部	機械工学科	友田七海
	電気電子情報工学科	廣田稜太
	応用化学科	西遼介
情報学部	情報工学科	堤大樹
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	窪野奨真
	情報メディア学科	溝渕彩久良
創造工学部	自動車システム開発工学科	木村尚也
	ロボット・メカトロニクス学科	兪君虎
	ホームエレクトロニクス開発学科	林直人
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	小田切尊
健康医療科学部	看護学科	松下夏巳
	管理栄養学科	田代紅々菜
	臨床工学科	熊谷直歩

『松川サク工業賞』表彰者

情報学部	情報工学科	宮澤竜輝
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	小田切尊

学長賞

羽 田 瑞 穂 (看護学科)

[課外活動部門]

課外活動賞

(団体表彰) <最優秀課外活動賞>

「棋道部」

代表者 吉 田 友 太 (応用化学科)

(団体表彰)

「学生自主防犯ボランティア団体 KAIT BLUE」

代表者 加 藤 陽 真 (情報ネットワーク・コミュニケーション学科)

「学生ECO推進チームみどり」

代表者 青 木 拓 海 (応用化学科)

「KAIT eSports」

代表者 小早川 唯 志 (機械工学科)

[ハイアクティビティ部門]

ハイアクティビティ賞

(個人表彰) <最優秀ハイアクティビティ賞>

溝 渕 彩久良 (情報メディア学科)

(個人表彰)

島 田 紘 武 (情報工学科)

梅 田 芳 護 (情報工学専攻 博士前期課程)

藍 原 直 大 (情報工学科)

齊 藤 仁 (情報工学専攻 博士前期課程)

櫛 田 麻 衣 (臨床工学科)

佐々木 勇 輝 (ロボット・メカトロニクスシステム専攻 博士前期課程)

赤 羽 秀 (情報工学専攻 博士前期課程)

清 田 拓 実 (機械システム工学専攻 博士前期課程)

矢 田 悠 人 (機械システム工学専攻 博士前期課程)

谷 口 祐 一 (機械システム工学専攻 博士前期課程)

山 本 成 世 (電気電子工学専攻 博士前期課程)

白 井 耀 (ホームエレクトロニクス開発学科)

山 田 悠 貴 (情報メディア学科)

宇佐美 優 乃 (応用化学・バイオサイエンス専攻 博士前期課程)

西 東 優 心 (管理栄養学科)

(団体表彰) <最優秀ハイアクティビティ賞>

「電気電子情報工学科AIカーチーム」

代表者 島 村 優 希 (電気電子工学専攻 博士前期課程)

(団体表彰)

「ものづくりサークル Lifehackers」

代表者 渡 邊 田 実 (ホームエレクトロニクス開発学科)

「KAIT SDGs HUB」

代表者 原 山 昂 士 (応用化学科)

代表者 石 井 克 典 (情報メディア学科)

「電子ロボ実行委員会」

代表者 中 山 鴻 志 (電気電子工学専攻 博士前期課程)

「Meta Table β」

代表者 酒 井 優 成 (ホームエレクトロニクス開発学科)

「The20th IEEE TOWERS Executive Committee」

代表者 橋 場 元 紀 (電気電子工学専攻 博士前期課程)

「KAIT ソーラーカープロジェクト」

代表者 石 山 敬 太 (自動車システム開発工学科)

「TUAYAOTO」

代表者 工 藤 聖 央 (ホームエレクトロニクス開発学科)

「スノーフェスタ2024」

代表者 田 邊 泰 盛 (情報ネットワーク・コミュニケーション学科)

「チームネットワークラボ2023」

代表者 伊 藤 悠 真 (情報工学専攻 博士前期課程)

※団体は代表者のみの記載とさせていただきます。

卒業生へのメッセージ

贈る言葉



機械工学科 学科長 教授 有川 敬輔

機械工学科を卒業される皆さん、機械工学専攻を修了される皆さん、おめでとうございます。ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

機械工学科、機械工学専攻での学びはいかがでしたか。

もともと、「機械」という言葉から連想される内容と機械工学で学ぶ内容は異なると思いますが、特に皆さんの場合、コロナ禍がもたらした状況は全く予想外であったことと思います。4年生の皆さんは、コロナ禍の手探り状態の中での入学でした。オンラインでの授業のスタート、登校日の制限など、これまで考えられなかった状況が起りましたが、皆さんは見事にこの環境に適応しました。未来を予測することが困難なこの時代、必要とされる重要な力の一つは、まさに、コロナ禍で皆さんが示した変化に適応する力です。

未来を予測しにくい社会では、仕事でも生活でも思い通りにいかないことの方

が多いと思います。努力したからといって思うような結果が出るとはかぎりません。「結果が全て」という言葉を耳にすることがあると思います。本当にそうでしょうか。努力していけば、新しい知識や技術が身につくでしょう、新しい人との出会いもあるでしょう、得た知識や技術を教えてほしいと人から必要とされることもあるでしょう。思い通りの結果が得られなかったとしても、回り道をしなが、その過程で払った努力には十分に価値があります。むしろ、回り道の中で体験することは、思い通りの結果から得られる一瞬の喜びよりも価値があると思います。

目的に向かって一直線に続く道はつまらないです。どうぞ皆さん、回り道をしなが、道を歩くこと自体を楽しんでください。

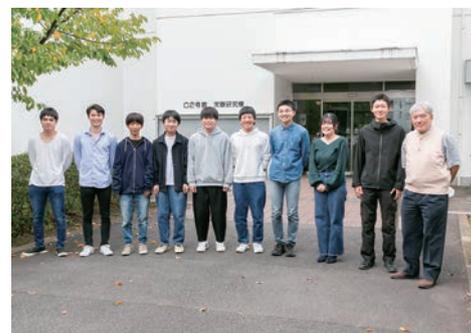
皆さんの幸せをお祈りしています。



有川研究室 (ロボット機構学研究室)



川島研究室 (振動システム実験研究室)



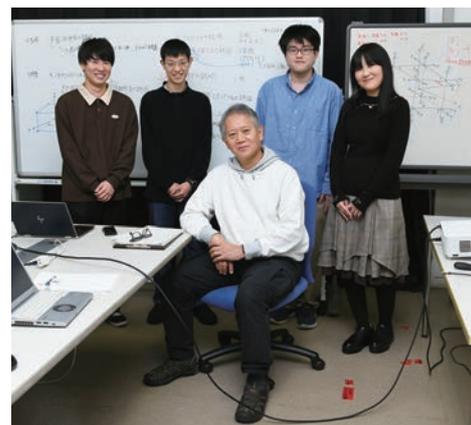
木村研究室 (空気力学研究室)



小机研究室 (構造動力学研究室)



佐藤 智明研究室 (教育機械工学研究室)



照井研究室 (宇宙制御工学研究室)



渡部研究室 (構造デザイン研究室)



今井研究室 (精密加工研究室)



中根研究室 (流体物理学研究室)



秋野研究室 (熱流体工学研究室)



林研究室 (燃焼工学研究室)



水野研究室 (生産工学研究室)



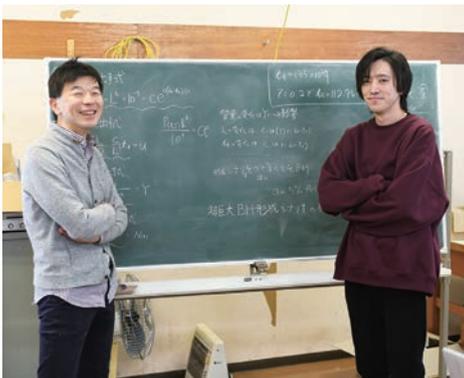
吉岡研究室 (動的设计研究室)



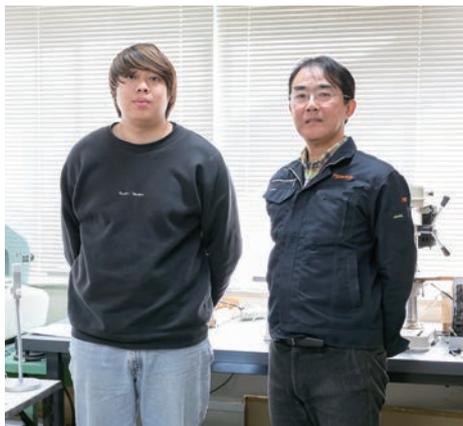
石綿研究室 (流体科学研究室)



山本研究室 (計算物理学・力学シミュレーション研究室)



栗田研究室 (基礎物理学・宇宙物理学研究室)



門田研究室 (機械技術教育研究室)



佐藤 史緒研究室 (教育心理学研究室)

卒業生へのメッセージ

贈る言葉



電気電子情報工学科 学科長 教授 瑞慶覧 章朝

卒業生の皆さん、大学院修了生の皆さん、そしてご家族の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

社会人になると、先輩や同僚、周りの人々が日々考え、討論・創造し、日本中や世界中を駆け回って生き活きと働いているのを目の当たりにすると思います。給料ももらえますし、努力した分だけ増えていきます。皆さんも是非、充実した社会人生活を切り拓いていってください。しかし、お金をもらうということは、プロになるということです。これには大きな責任が伴います。今後幾度も困難に直面することになると思いますが、転んでも何かを掴んで立ち上がってください。その瞬間はつらくても、一つ一つの経験が、皆さんをたくましい社会人に成長させてくれるはずです。

ここで、困難な課題を解決するためのコツを2つ紹介します。ひとつ目は、日頃から「あいさつ」をすることです。そして、「人と人とのつながり」を大切にしてください。この「つながり」はすぐにはできるものではありませんので、日々の「あいさつ」から大事にしてください。新入社員のときに2週間かかったような問題を30分で解決することも夢ではありません。ふたつ目は、施策・対策を十分に考えるということです。問題に直面したとき、その解決を急ぐ

あまり計画が不十分になりがちです。「転ばぬ先の杖」、「段取り八分、仕事二分」という人もいます。一見遠回りに思えますが、成功するかしないかは、計画段階で80%決まってしまうのです。社会へ出て、つまずいたとき、この言葉を思い出して試してみてください。抜群の効果を発揮するはずですよ！

これからの皆さんの活躍を心より祈っています。それでは、社会人人生への良い旅を。



板子研究室 (パワーエレクトロニクス研究室)



工藤研究室 (電子デバイス研究室)



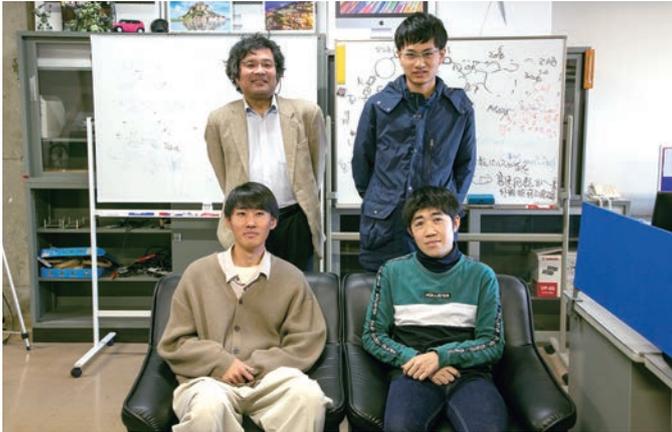
小室研究室 (先端電子計測研究室)



瑞慶覧研究室 (電気応用研究室)



中津原研究室 (光機能デバイス研究室)



檜原研究室 (非線形波動工学研究室)



高取研究室 (モビリティITC研究室)



高橋研究室 (視環境研究室)



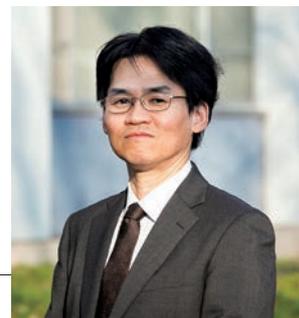
武尾研究室 (AI・画像工学研究室)

*武尾先生は2023年4月ご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



卒業生へのメッセージ

贈る言葉



応用化学科 学科長 教授 森川 浩

ご卒業おめでとうございます。

第一に、ご家族を含めて多くの人に支えられ、これまでの学生生活を過ごせたことを振り返り、感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

多くの人は4月より実社会へと進むことになります。そのような意味で、大学の「卒業」は、ゴールでなく新たなスタートです。昨今の社会には、閉塞感やグローバル化などの様々な現実が突きつけられ、予測困難な時代を迎えています。入学間もない時期に、コロナ禍にぶつかり、悩んで様々な知恵が試されたのも最たる例だと思います。刻々と変わりうる状況に対し、何が正解かを皆が模索していたはずです。

そのような時代と社会の真ん中で、皆さんたちは過ごしていくことになります。現在、常識と言われている物事が、時代とともに

常識でなくなる場合もあるでしょう。このような世の中の「変化」に対応していく必要があります。皆さんは、本学科で、多くのデザイン教育・課題解決型授業を学んできました。卒業研究もその1つでしょう。これらを通じて、「自分の頭で考え、行動する」、そのための知的な基礎体力と対応力を身に着けたはずです。卒業後、これから多くの困難に直面すると思いますが、自分で考え、自ら模索し、自分なりの対応や答えを見つけていってください。

社会が変わっていく中でも、最後は「人と人とのつながり」が大事になってきます。家族や友人、組織の内外などの多くの他者と関わって、大きく刺激を受け、考えを深め、気づき、喜び、時には悲しんで、人間的に大きく成長していってください。

この厚木の地を旅立っていく皆さんが、幸せな人生を歩んでいかれることを応用化学科教職員一同、心より願っています。



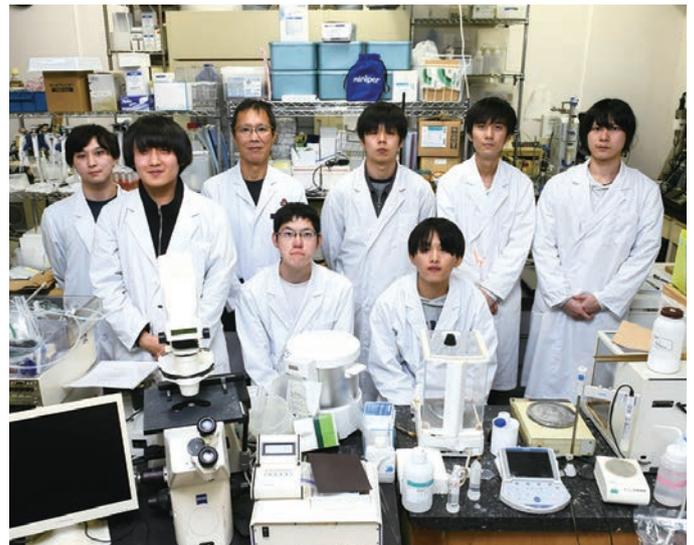
齋藤研究室 (環境化学・環境生物研究室)



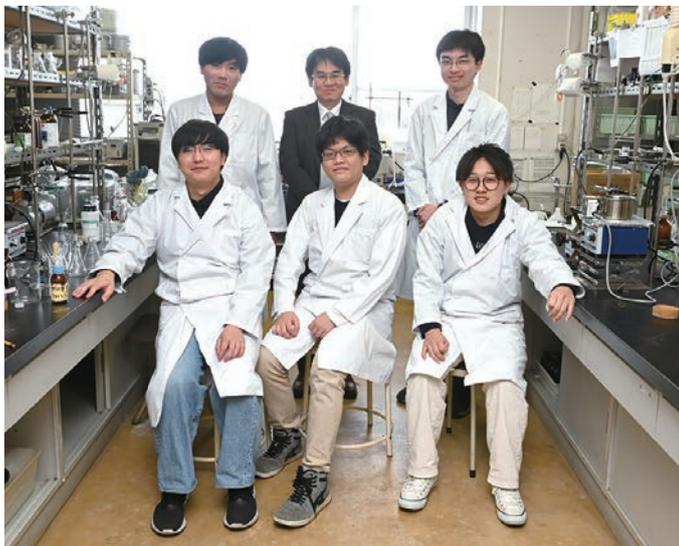
三枝研究室 (高分子化学研究室)



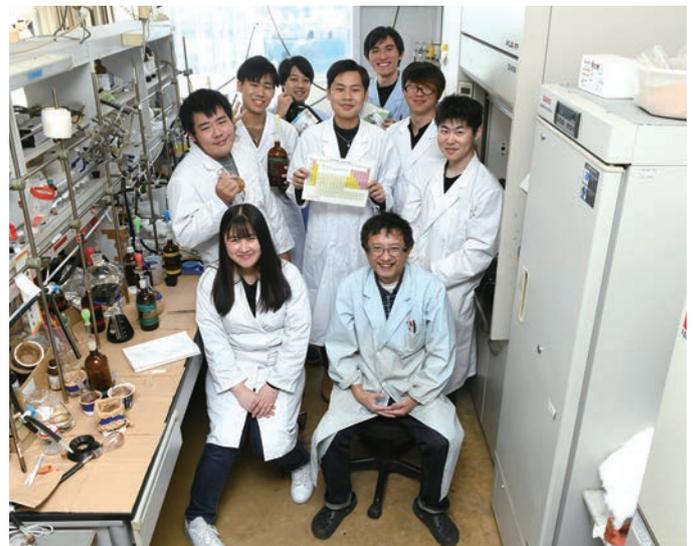
茂野研究室 (ファインセラミックス研究室)



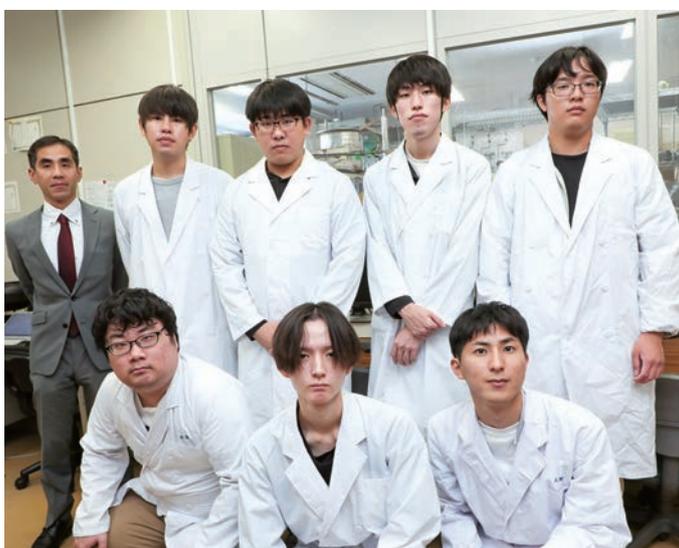
高村研究室 (環境と生体影響研究室)



森川研究室 (有機材料研究室)



山口研究室 (有機合成化学研究室)



大庭研究室 (資源エネルギーシステム研究室)

卒業生へのメッセージ

「本質を見極める力」



自動車システム開発工学科 学科長 教授 山門 誠

卒業生・修了生の皆様へ、卒業・修了おめでとうございます。皆様のご家族も安堵されていることでしょう。新型コロナウイルスによる2020年からの状況変化により、人とのつながりや直接の交流の重要性が浮き彫りになった時期でした。同時に、逆境を克服し、新しい道を切り拓く力を学び取ったことでしょう。

皆さんはこの1年で、研究テーマの選定から製作実験、論文作成、そして発表に至るまでのプロセスで大きく成長を遂げたと思います。今回の達成感は、将来において貴重な資産となるでしょう。ぜひこれを今後の挑戦の原動力としてください。未来への切り拓きは、皆さんの瑞々しい感性とそれを具現化する行動力に基づいています。進むべき方向が迷走する時もあるかもしれませんが、恐れずに挑戦し、迷ったならば物事の本質に真剣に向き合ってください。

技術やイノベーションの進歩が求められる中で、倫理観が重要

な役割を果たします。製品やシステムの開発において、皆さんが追求すべき最も基本的な価値観は何かを常に考え続けることが求められます。ただの技術的な課題として捉えるのではなく、その裏にある倫理的な側面にも注視することが必要です。

得が得られる楽な道ではなく、本質を見極めることが大切です。失敗を恐れず、転んでも必ず何かをつかんで立ち上がってください。その経験が人生に深みを与え、多彩な色彩をもたらすと信じています。自分自身と向き合い、信じた道を自信を持って歩んでいくことを願っています。

歩み続ける中で疲れた時は、本学に足を運び、4年間または6年間の成長と経験を振り返りながら、再び歩み出してください。

最後に、卒業生・修了生の皆様の今後のご活躍と、ご家族の皆様のご健康を心からお祈りし、これからも素晴らしい人生を歩まれることをお祈りしています。



菊池・加藤研究室(コネクテッド・モビリティ研究室)



クライソン研究室(電動システム研究室)



山門・狩野研究室(車両運動・制御研究室)



脇田・小宮研究室(知能モビリティ研究室)



岡崎研究室(モータースポーツ工学研究室)



川口研究室(ソーラービークル研究室)



石綿研究室(流体科学研究室)

卒業生へのメッセージ

卒業おめでとうございます

ロボット・メカトロニクス学科 学科長 教授 河原崎 徳之



ロボット・メカトロニクス学科を卒業する皆さん、ロボット・メカトロニクスシステム専攻を修了される皆さん、おめでとうございます。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族、ご親族の皆様にも心よりお喜び申し上げます。

皆さんは、これまでの大学、大学院生活を通じて、多くのことを学んできたことと思います。特に、卒業研究、修士研究では、これまでにない努力をしてきたことでしょう。最初は何もわからない状態から始めて、試行錯誤を繰り返し、深夜にまで及ぶ作業など、苦しいことも多かったことと思います。皆さんがこれから社会で仕事をしていく上では、解決方法が与えられていない問題を期限内に処理して、他者に正確に報告するといった、卒業研究、修士研究で行ってきたことの繰り返しになります。皆さんは、多くの困難を乗り越えて卒業、修了という目標を達成したのですから、大いに自信を持って社会へ飛び出してください。

これからの世の中は移り変わりが激しく、先が見えにくい不確かな時代です。一番大切なのは、氾濫する情報に惑わされず、何が正しいのか常に自分の頭で考えることです。皆さんが大学および大学院で身に付けたものは、知識や技術ばかりではありません。何かの問題に対処するとき、情報を取捨選択して論理的

に考え、自ら解決方法を探る力です。また、常に他者を思いやる気持ちを持って、皆さんの力でよりよき時代を築かれることを期待しております。また、学生時代により仲間と出会い、喜びや苦しさを共有したことは皆さんの宝ですから、大学で出会った友人達とのつながりを社会に出てからも大切にしてください。卒業後も時々は大学に遊びに来て、近況をお知らせいただき、我々にも刺激を与えてください。教職員一同、皆さんのご活躍を願っております。



河原崎研究室 (ロボット・インタフェース研究室)



高尾研究室 (人間工学研究室)



高橋 勝美研究室 (運動機能評価研究室)



高橋 良彦研究室(人間支援システム研究室)



兵頭研究室(知能機械研究室)



吉野研究室(ロボット・ビジョン研究室)



吉満研究室(フルードパワー・災害救助ロボット研究室)



三枝研究室(人間機械共生研究室)



吉留研究室(ユニバーサルロボット研究室)



卒業生へのメッセージ

自信をもって学びと挑戦を続け



ホームエレクトロニクス開発学科 学科長 教授 黄 啓新

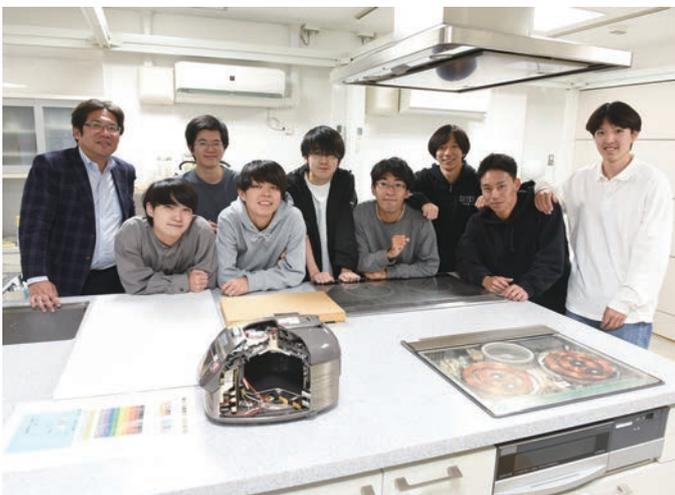
皆さん ご卒業おめでとうございます。

四年前に新型コロナウイルスの影響で、皆さんの大学生活は一変し、キャンパスでの授業や部活・サークル活動ができなくなり、アルバイトや友たちとの交流等が余儀なく制限されてしまいました。こういった不測の事態に直面しながらも、皆さんと私たち教職員でオンライン方式など新しい学習の形態を作り上げ、学業に精力的に励み、今日、晴れて大学卒業という日を迎えることができました。

いま私たちを取り巻く社会や地球環境は大きく変わりました。生成AIの台頭やデジタル技術の発展は我々の生活や社会に大きな影響を与えています。こうした変化が激しい時代において、人間の知恵と力がますます重要視されています。皆様が今まで学んできたことや経験したことは次のステージでの貴重な資産になります。未来に向けての挑戦に臆することなく、自らの可能

性を信じ、積極的に行動してください。新たな環境や困難に直面したときこそ、自らを信じて前進することが大切です。また、大学を卒業したからといって学びが終わるわけではありません。学び続ける姿勢を忘れず、常に新しい知識やスキルを身につける努力を惜しまないでください。皆様は、未来を担うリーダーやイノベーターとしての可能性を秘めています。自分自身の力を信じ、そして周りの人々と協力し合いながら、より良い社会を築くために活躍してください。私たち教職員は、皆様の成功と幸福を心から祈っています。これからも皆様の輝かしい未来を応援しています。

今日という節目を大切に、是非今まで経済的、精神的に支えてくれたご家族に感謝の意を表し、明日以降、大きな一歩を踏み出してください。



安部研究室(ユビキタスコンピューティングシステム研究室)



奥村研究室(人間中心家電研究室)



金井研究室 (知能家電研究室)



黄研究室 (センサと家電研究室)



広井研究室 (システムエネルギー学研究室)



三栖研究室 (照明工学研究室)



杉村研究室 (IoTプログラミング研究室)



山崎研究室 (コミュニケーションロボティクス研究室)

卒業生へのメッセージ

贈る言葉



応用バイオ科学科 学科長 教授 飯田 泰広

巣立ってゆく「バイオフィAMILY」の皆さん、ご卒業おめでとうございます。応用バイオ科学部応用バイオ科学科に入学し、幾多のハードルを乗り越え、大学生活のゴールを迎えました。入学当初はコロナ禍で大学には入れずオンラインの授業、初めてみなさんと顔を合わせたのは8月のクラス会、9月にまとめて前期の実験に取り組みました。その後も入構制限があり、毎日大学に来れるようになったのは3年生になってからでした。1年間の卒業研究を終えて、今、晴れて卒業される皆さんを祝福すると共に、長年にわたって学生諸君を支えてこられた保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

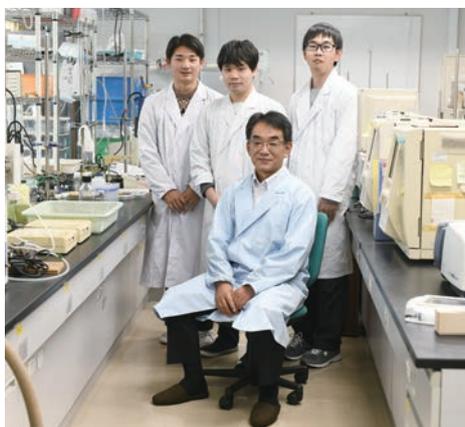
みなさんは応用バイオ科学科に「生命科学コース」「応用バイオコース」が設置された最初の卒業生です。いずれのコースも「基礎学力」や「応用力」はもちろん、「全人教育」を念頭にカリキュラムを組んでおり、苦しみながらも総合力を身に付けてきました。バイオ科で学んだ内容は、未来を担う皆さんの可能性を秘めた分野です。自然の仕組みとヒトの知恵を結びつけ、より持続可能な社会の

実現に向けて貢献していくことでしょう。

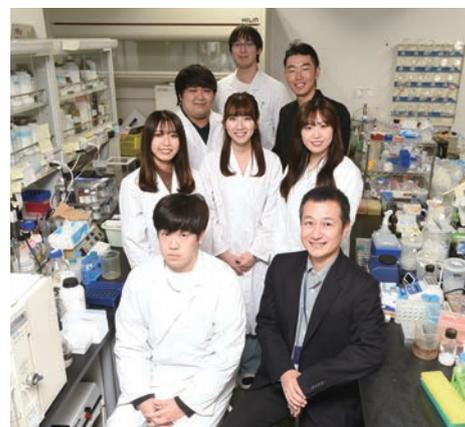
これから、皆さんは巣立ち、それぞれの道を歩み始めます。卒業研究では、「努力すること」が評価の対象でしたが、「成果を出すこと」が期待されることになります。結果を求められ、息詰まることもあるかもしれません。努力が報われないこともあるかもしれません。しかし、みなさんは困難な課題に立ち向かう強さと想像力を備えています。また、その「努力すること」を見ている人、評価してくれる人が必ずいます。誰かがやらねばならないことは自分がやる、誰がやってもいいことも自分がやる、と率先して行動して行ってほしいと思っています。気が付けば、多くの人が応援してくれているはずです。現代の予測困難な時代において、変化に適応し続ける能力は最も大切なことだと思います。バイオ科で培ったチャレンジ精神で変化を恐れず、常に前に進む努力を続け、社会で活躍していきましょう。



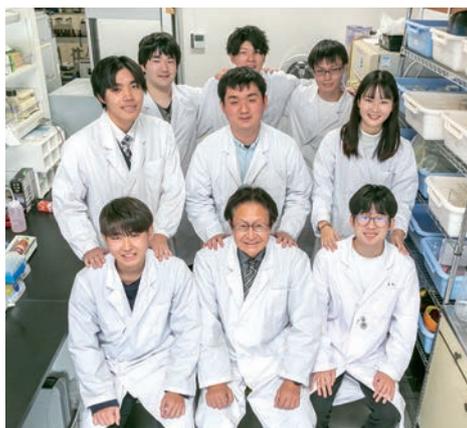
飯田研究室 (生物制御科学研究室)



市村研究室 (膜分離工学研究室)



井上研究室 (老化・疾患生物学研究室)



岩本研究室 (植物細胞工学研究室)



栗原研究室 (免疫化学研究室)



小池研究室 (分子機能科学研究室)



清水研究室 (食品高分子化学研究室)



野田研究室 (天然有機化学研究室)



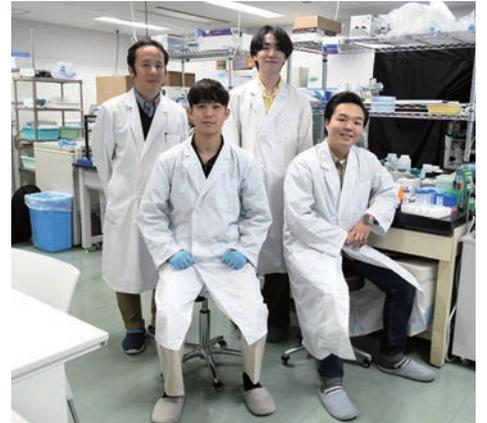
村田研究室 (時空間細胞生物学研究室)



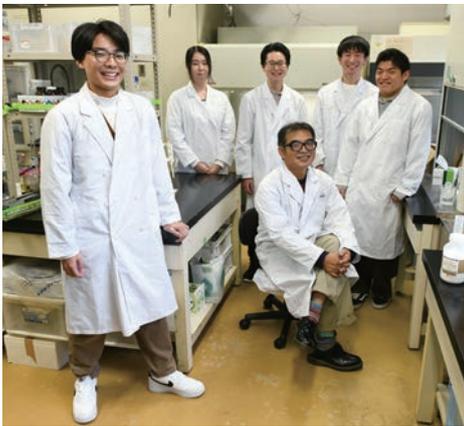
小澤研究室 (水産化学研究室)



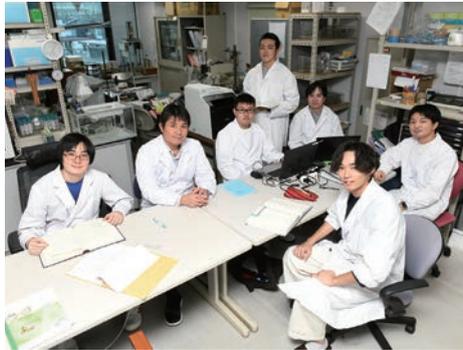
仲亀研究室 (微生物工学研究室)



山下研究室 (神経生物学研究室)



山村研究室 (酵素工学研究室)



和田研究室 (環境高分子化学研究室)

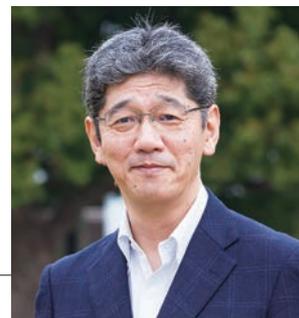


生命科学研究室



卒業生へのメッセージ

贈ることば



情報工学科 学科長 教授 田中 哲雄

皆さん、卒業・修了おめでとうございます。皆さんの学士(工学)、修士(工学)の学位取得を心から祝福します。また、ご家族の皆様におかれましては感慨もひとしおのことと存じます。心よりお慶び申し上げます。

皆さんはこの4年間あるいは6年間で情報工学に関する基礎を学び、実験や実習で基本技術・専門技術を修得しました。その集大成として卒業研究・修士研究に邁進しやり遂げました。自分はあまり変わっていないと思う人もいるかもしれませんが、入学前の自分と今の自分を比べてみてください。皆さんは自分で想う以上に多くのことを学び、経験し、成長しています。また、学業に限らず友人や先輩・後輩たちとともに喜んだこと、悔しかったこと、悩んで悶々としたこと、それらすべてが皆さんを成長させました。学生生活でやり遂げたこととその感激をいつまでも忘れないようにしてください。

情報工学は現代社会において欠かせない分野となっています。これは先人の偉業です。技術の進化は加速し未来には新たな挑戦が待っています。夢があります。本学で情報工学を学んだ皆さんには、これまでに学んだ知識やスキルを活かし、日々進化する技術を自分のものにして、社会に貢献する新たな価値の創造に挑戦してほしいと思います。先人に感謝を、未来に夢を!

本学の教育目的は「考え・行動する人材の育成 ～社会で活躍できる人づくり～」です。この目的は達成されたと確信します。2023年はChatGPTが大いに注目を集め日本の生成AI元年となりましたが、考え・行動することはAIにはできません。自分の頭で考え自ら行動することを止めずに日々成長を続けてください。皆さんのさらなる飛躍を祈りつつ、元気な笑顔に再会できる日を心待ちにしています。



五百蔵研究室(言語設計学研究室)



稲葉研究室(経営システム工学研究室)



大塚研究室(Web工学研究室)



木村研究室(信号処理応用研究室)



清原研究室(モバイルコンピューティング研究室)



塩野研究室(社会システム工学研究室)



鷹野研究室(データベースシステム研究室)



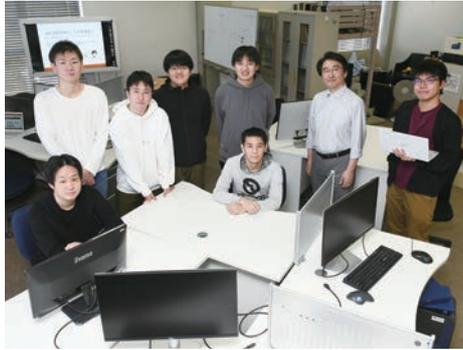
田中 哲雄研究室(ソフトウェア工学研究室)



田中 博研究室(情報通信研究室)



陳研究室(知能処理システム研究室)



辻研究室(数理画像情報学研究室)



納富研究室(対話型システム研究室)



松本・鈴木研究室(知能情報処理研究室)



宮崎研究室(画像情報処理システム研究室)



森研究室(メディア認識理解研究室)



谷代研究室(スポーツ情報科学研究室)



川喜田研究室(IoTシステム研究室)



須藤研究室(知能システム工学研究室)



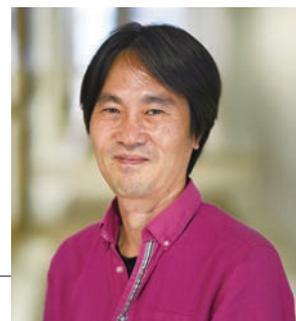
先端情報工学調査プロジェクト



卒業生へのメッセージ

未知のフロンティアでの皆さんの挑戦と活躍を期待しています

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 学科長 教授 鳥井 秀幸



卒業おめでとうございます。入学以来、皆さんは情報ネットワーク・コミュニケーション学科で、講義、実験・実習、研究、課外活動など、さまざまな経験を通して、一人ひとりの個性と強みを磨いてきました。その成果は、皆さんの卒業論文や研究発表という形で結実しました。

これから皆さんは、大学での学びを活かして、社会人として新たな一歩を踏み出します。社会では、常に新たな課題への挑戦が求められます。時には困難にぶつかる場合もあると思いますが、諦めずに前進し、挑戦し続けてください。

社会人として活躍していくためには、学問的な知識やスキルだけでなく、さまざまな能力や資質が求められます。例えば、問題解決能力、創造性、コミュニケーション能力などがあげられます。皆さんは、大学生活を通して、これらの能力や資質をすでに身につけてきていると思います。社会人として活躍していくために、卒業後もこれらの能力や資質をさらに磨き、高めていくことを願っています。

現代の社会は常に激しく変化しています。また、技術的なイノベーションが社会に与える影響や社会を変革する力は、ますます大きくなっています。このような社会で活躍するためには、常に新しい情報に触れ、自分の考えをアップデートしていくと同時に、未知の領域において新しいことにチャレンジし、自分の可能性を広げていくことが大切です。

最後に、皆さん一人ひとりが、社会に貢献できる人材として活躍する未来に期待するとともに、心から応援しています。卒業おめでとうございます。



井上研究室(立体映像メディア研究室)



白杵研究室(応用情報システム(自律、モノの流れ、音楽)研究室)



岡崎研究室(ネットワークセキュリティ研究室)



岡本 剛研究室(コンピュータウイルス対策研究室)



岡本 学研究室(セキュア・バリアフリー研究室)



塩川研究室 (モバイルネットワーク研究室)



鳥井研究室 (無線通信理論研究室)



丸山研究室 (ネットワークコンピューティング研究室)



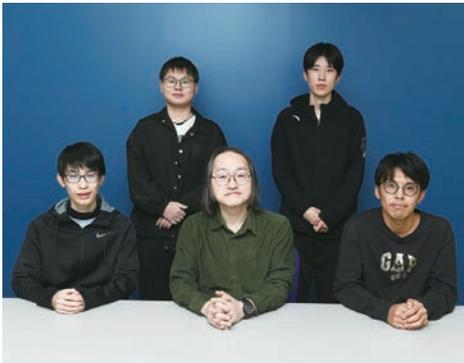
井家研究室 (情報システム評価研究室)



岩田研究室 (コミュニケーションソフトウェア研究室)



凌研究室 (情報サービスシステム研究室)



須賀研究室 (マルチメディア情報処理研究室)



海野研究室 (ソフトウェア科学研究室)



卒業生へのメッセージ

贈る言葉

情報メディア学科 学科長 教授 春日 秀雄



ご卒業おめでとうございます。幾多の困難と試練を乗り越えた皆さんに対して、心よりお祝い申し上げます。また、卒業生の皆さんを支えてこられたご家族、ご関係の皆さんにも感謝と敬意を表します。

皆さんの入学した2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の真ただ中でした。4月7日には第1回目の緊急事態宣言が発令され、キャンパスの入構制限とオンラインでの授業が続きました。学生の皆さんも教職員も、慣れないオンライン環境に多くの戸惑いと苦労があったと思います。また、クラブ活動やサークル活動が制限され、大学という新たな環境で友人を作ることも難しい環境で悩みや不安も多かったことと思います。

本学で原則対面の授業が実施されるようになったのは2022年度の後期からです。皆さんは2年半の間、特異な環境での大学生生活を送ることを余儀なくされ

ました。しかし、このパンデミックは私たちに多くのことを教えてくれました。社会基盤や経済活動の変化は新しい技術を生み出し、新たな価値の創出にもつながりました。環境の不便さのマイナス面ばかりに目を向けるのではなく、困難を乗り越える際に得られた成果をプラスに捉えましょう。得難い経験が皆さんを大きく成長させたと言えます。

情報メディア学科はメディア技術やコンテンツ制作を学ぶ学科です。技術もコンテンツも、「これで十分」となることはありません。現状に満足せず、常に新しいことにチャレンジすることが重要です。そんな時に本学での経験は、必ず役に立つはずで。皆さんの身に付けた力は、明るい未来を切り開く力です。皆さんがこれからも元気に活躍されることをお祈り申し上げます。



梶研究室 (総合キャラクタ&エンタテインメントメディア研究室)



春日研究室 (画像処理・画像認識研究室)



酒井研究室 (モバイル・xRコンピューティング研究室)



佐藤研究室 (ビジュアルコンピューティング研究室)



西口研究室 (音響シミュレーション研究室)



西村研究室 (可視光と不可視光の画像処理・認識技術研究室)



服部研究室 (3DCG ゲーム VR 研究室)



福本研究室 (映像メディア表現研究室)



谷中研究室 (デジタル3Dシステム研究室)



渡部研究室 (生活支援メディア研究室)



上田研究室 (応用音響工学研究室)



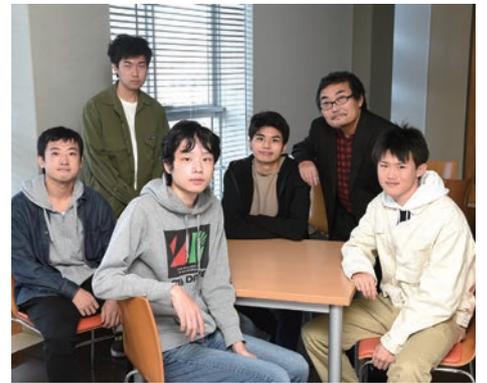
黒川研究室 (サウンドコンテンツメディア研究室)



鈴木研究室 (インタラクションデザイン研究室)



村上研究室 (メディア芸術表現研究室)



山内研究室 (画像処理応用・医用情報処理研究室)



山本研究室 (法と道徳 研究室)



卒業生へのメッセージ

「対象者にとっての最善」を追究し、 「学び続ける」プロフェッショナルに!!



看護学科 学科長 教授 新実 絹代

6回生としてご卒業を迎えられた皆さま、おめでとうございます。

温かく成長を見守られた保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんは、4月から保健・医療施設に就職され、新たな生活をスタートされます。新たな門出に際し一言お伝えしたいと思います。

まず、4年間の看護学科の教育課程を無事修められ成し遂げたことに、「自信」と「勇気」をもってください。看護専門職としての知識・技術・態度を修得するための学習過程では、困難にも遭遇したかと思えます。特に、皆さんは、COVID-19の影響でオンライン授業も多く、学修の進め方など苦慮することも多かったと思います。臨地実習では、生命と向き合う厳しさや闘病を支援する難しさに悩んだ場面も多々あったかと思えます。反面、受け持たせて頂いた患者さん、臨床指導者、担当教員の指導から、看護のやりがいや気づきを頂き、前進できた経験もあったかと思えます。看護研究、就職、国家試験への取り組みなど多くのハードルを越え皆さんは看護大学生としても人間的にも大きく成長されました。

今後、皆さんの活動舞台となる保健医療福祉界の動向は、超高齢化による疾病構造の変化や重症化、地域包括ケアシステムの完成や働き方改革の推進な

ど多くの課題が山積しています。COVID-19は感染症法5類ですが、対応に苦慮する状況はしばらく続きます。

今後の皆様に向けて、「仕事の流儀」という番組で、プロフェッショナルとはという問いにがん治療に革命をもたらした極小ハサミを開発した医療器具開発者西村幸氏は、「プロフェッショナルとは持続する情熱」と述べています。看護の仕事に継続的に熱意をもって取り組んで頂きたいと思えます。

4月から皆さんは、各施設の教育や支援を受けながら、多くの課題に取り組むことが求められます。常に「対象者にとっての最善」を基準に判断し、看護職としてのご自身の行動の根拠としてください。判断に困ったとき、目標を見失いそうになった時には、これからの未来を見据えて考え、学ぶこと、自己研鑽することで方向性が見出せます。その積み重ねこそが、プロフェッショナルになる歩みとなります。

本学は、皆さんにとって「母校」・「母港」です。いつでも立ち寄って頂きより成長された姿を見せてください。皆さんのご活躍と前途に幸多きことを教職員一同祈念しております。



<看護研究Ⅱ>

<地域・在宅看護学>

<基礎看護学>



<指導教員>

鈴木 久美子 教授
猪又 克子 准教授
水谷 郷美 講師
黒澤 敦子 助手



<指導教員>

西田 幸典 教授
泉山 由美子 講師

<成人看護学>



<指導教員>

金子 直美 教授
窪田 光枝 講師
奈良 唯唯子 講師
久松 桂子 講師
川田 恵利子 助手
高柳 朋恵 助手

<老年看護学>



<指導教員>

金子 直美 教授
高野 真由美 講師
佐藤 綾香 助手

<小児看護学>



<指導教員>

濱邊 富美子 教授
欠ノ下 郁子 講師
三橋 礼子 助手

<母性看護学>



<指導教員>

前山 直美 教授
上田 恵 講師
松沢 祐子 助手

<精神看護学>



<指導教員>

田代 誠 講師
田岡 優美子 助手

<公衆衛生看護学>



<指導教員>

入江 慎治 教授
鈴木 大地 助教

<看護管理学>



<指導教員>

新実 絹代 教授
辻田 幸子 講師

<看護事務センター・就職事務>



<看護事務センター>

湯田平 咲弥香
田中 恵子
荒畑 真穂

<就職事務>

阿部 美佐子

卒業生へのメッセージ

贈る言葉



管理栄養学科 学科長 教授 澤井 淳

4年生の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは1年の入学からコロナ禍。入学式もなく5月からオンライン講義で、皆さんも我々も手探りで進めました。どうして自分たちの時なんだと、思ったことでしょうか。でも、このコロナ禍でオンライン化が進み、これまでとは違った世界になったことは間違いありません。もう戻ることはないでしょう。皆さんはその第1世代として、保護者の方や先生の庇護を離れ、自分の力で進んでいくことになります。

今日、大学を旅立つにあたって見える光景はどのようなものですか。この光景を入学のときに想像できたでしょうか。

1年生からオンラインを取り込んだ多くの実験・実習、選択の余地のない必修だらけで全くすき間のない時間割、それでも次々と入る補講、徹底的に鍛えられた臨地実習、他にも〇〇演習、〇〇セミナー、〇〇プロジェクト・・・管理栄養士として実践的な教育をくぐり抜けてきました。本当によく頑張ったと思います。皆さんの頑張りを私は誇りに思います。

皆さんは「栄養学」という学問を修めただけでなく、人としても大きく成長しました。管理栄養学科で、神奈川工科大学で学んだことを武器に、皆さんは様々な分野へ旅立っていきますが、もう準備はできています。

最後にどこへ行こうと、どれだけAIが発達しようと、社会人として大切なことを3つ。

- ・いつも上機嫌でいること。不機嫌をまき散らかして、自分を甘やかさないこと。
- ・「忙しい」ということと、「充実」していることは違います。勘違いしないこと。
- ・辛いこともあります。「選ばれていない」時が「選ばれている」時です。

自分を大切に生きていって下さい。そして、また元気な顔（元気じゃなくてもいいですよ）を私たちに見せに大学に遊びに来て下さい。今後の健闘そしてご活躍を祈ります。



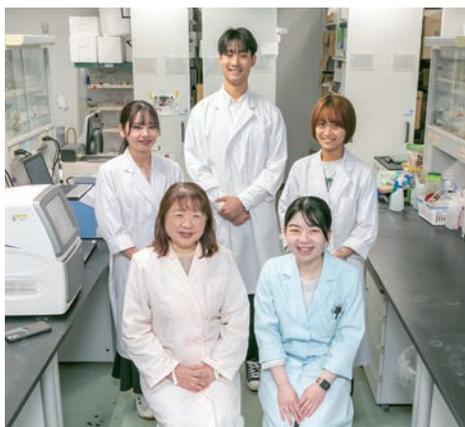
饗場研究室 (栄養教育研究室)



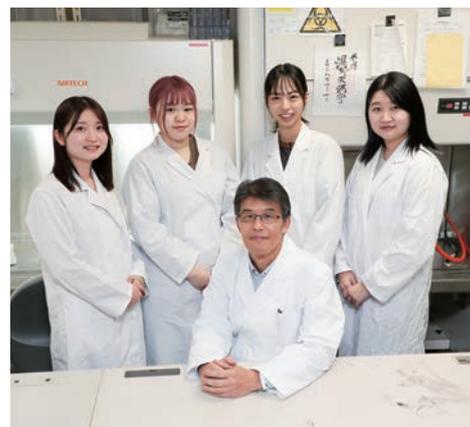
鮎澤研究室 (生育栄養学研究室)



菅野研究室 (実践臨床栄養学研究室)



清瀬研究室 (栄養生化学研究室)



澤井 淳研究室 (食品衛生学研究室)



花井研究室 (基礎栄養学研究室)



横山研究室 (病態栄養生化学研究室)



大澤研究室 (給食経営管理研究室)



澤井 明香研究室 (臨床栄養・健康科学研究室)



野村研究室 (調理学研究室)



原島研究室 (公衆栄養学研究室)



三宅研究室 (応用栄養学研究室)



宮本研究室 (食品学・薬理学研究室)



卒業生へのメッセージ

臨床工学技士として責任感を持ち、 努力を続けてください



臨床工学科 学科長 教授 松田 康広

臨床工学科卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族のみなさまにも、心より喜び申し上げます

みなさんは本学科に入学され、臨床工学技士を目指して学修してきました。新型コロナウイルス感染症は、みなさんの学修に大きな影響を及ぼしました。1年生は、入学式も対面授業も実施できず、オンライン授業と課題に明け暮れた毎日でした。2年生でも対面授業は限られて、オンライン授業が続きました。3年生でも落ち着くことなく、第6波から第8波まで到来しました。4年生になってようやく、行動制限がなくなりました。一方でみなさんは、困難な状況の中でも日々の努力の大切さ、継続することの難しさ、達成したときの喜びを、身をもって体験することができました。どこかであきらめていたら、今日という日を迎えることはできませんでし

た。臨床工学科の卒業生として自信と誇りを持ち、社会に羽ばたいてください。

新型コロナウイルス感染症に限らず、医療における臨床工学技士への期待は高まっています。大学を卒業してからが本当の学修の始まりです。臨床工学技士としての責任感を持ち、医療に貢献できるよう努力を続けてください。

みなさんの学修は、一人の力だけでできたものではありません。長い間、みなさんを育て、支えていただいたご家族に感謝し、ぜひそれを言葉や行動で伝えてください。また、多くの同級生とも支え合ってきました。大学時代の友人はかけがえない友人です。大切にしてください。大学にも顔を見せに来てください。いつでもお待ちしております。

学科一同、みなさんの幸せとご活躍をお祈りしています。



河口研究室 (情報システム電力変換工学研究室)



金研究室 (医療支援ロボットシステム研究室)



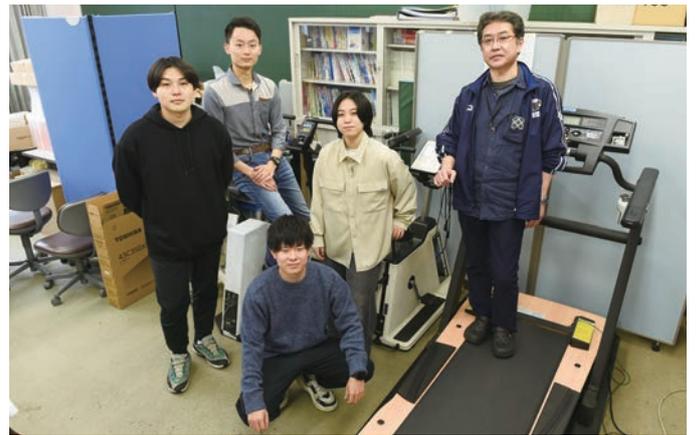
鈴木研究室 (クリニカルイノベーションマネジメント(CIM)研究室)



深澤研究室 (呼吸管理マネージメント研究室)



松田研究室 (ライフサポート工学研究室)



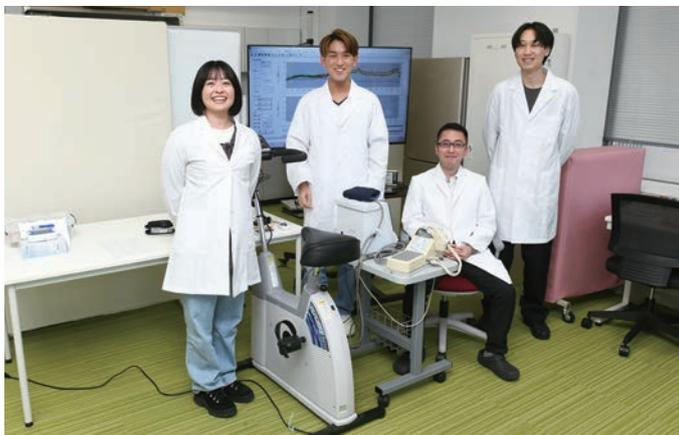
渡邊研究室 (運動生理・健康科学研究室)



大瀧研究室 (人間センシング研究室)



酒井研究室 (人工心肺制御学研究室)



西村研究室 (生体情報研究室)



川崎研究室 (臨床工学医療情報研究室)



学生☆活躍

大学院電気電子工学専攻の学生が電気設備学会で優秀発表賞を受賞

2023年8月30日、31日に工学院大学(新宿キャンパス)で開催された第41回電気設備学会全国大会において、大学院電気電子工学専攻2年の小谷 和希さんが論文発表を行い、優秀発表賞を受賞しました。

■論文題目

「PCCS法を適用したハーフブリッジインバータを用いたPV発電システムのシミュレーション」



受賞した小谷さん

東京ゲームショー2023に「ゲームクリエイタート訓」作品展

ゲームクリエイタート訓は情報メディア学科のユニークな取り組みのひとつです。メンバーは本学科所属の2年生から選抜され、1年以上の期間をかけて、ゲーム企画の立案・検討、ゲームプロトタイプ的设计から実装、展示装飾までを手がけます。本年、東京ゲームショーは例年通りの運用に戻ったこともあり、4日間とも本学ブースは盛況で試遊は全く途切れませんでした。



Spin Tower Tokyo 塔魂激突

出展作品は2つあり、1つは「Spin Tower Tokyo 塔魂激突」です。東京の著名な「タワー」が激突バトルを繰り広げるアクションゲームです。制作はUnityを用いていますが、ロータリーエンコーダをベースとした独自コントローラを設計・実装して、誰もが夢中にタワーを回す「熱い」操作を実現しました。



声波万波(せいはいばんぱ)

もう1つは、声のみで遊ぶ「声波万波(せいはいばんぱ)」です。これもUnityをベースとして、声から波の高さをコントロールする独自手法を実装しています。声による波のコントロールが実装の難点でしたが、出展までに試遊を繰り返し、調整を進めました。Windows版のほか、Android版・iOS版も出展しました。

これらの作品は、ネットメディア(日経クロストレンド、GameMakers)の取材を受け注目を浴びました。また、酒井研究室4年生の山田 悠真さんがGDASカラーシップに採択され、チェスのような独自のボードゲーム「ターバンタクティクス」を出展し、出展の時間が限られる中、これも高い評価を得られました。

応用バイオ科学科の学生がサイエンスアゴラ2023に出展しました

2023年11月18日(土)、19日(日)の2日間、東京お台場のテレコムセンタービルで開催された「サイエンスアゴラ2023」に、応用バイオ科学科2年生が開発した教材を出展し、多くの来場者の方々に体験していただきました。

当日は、アルファベットの書かれた積み木のようなものを並べてアミノ酸の仕組みを学べるものや、生物細胞と動物細胞の構造を、模型を手に取りながら学べる教材など、小さなお子様から、大人の方まで楽しそうに体験していました。



大学院生3名が「サイエンスアゴラ2023」のプログラムで総合会社とファシリテーターを務めました

2023年11月18日(土)、19日(日)の2日間、東京お台場のテレコムセンタービルで開催された「サイエンスアゴラ2023」の企画の1つ、「ゲノム医療ってなんだろう! 悲しむ人をつくらないために」で、本学の応用化学・バイオサイエンス専攻の大学院生3名が、総合会社とファシリテーターを務めました。

同企画は、今年6月に誕生した「ゲノム医療法」について、みんなで様々な視点からメリット・デメリットを考えようというものです。グループワーク(ディスカッション)には中学生から年配の方まで幅広い年代の方が参加されました。

最初に総合会社の宇佐美 優乃さん(応用化学・バイオサイエンス専攻 1年)からゲノム医療やDNAについての基本的な説明があり、次いで、話題提供者の横野 恵さん(早稲田大学社会科学総合学院社会科学部 准教授)とコメンテーターの堤 正好さん(日本衛生検査所協会 理事)から、「ゲノム医療法でわかった情報の扱い方が、まだ法律で定められておらず、新たな差別にもつながりかねない。情報の扱い方やその価値を理解して扱わなければならない」など、より深い説明がありました。

その後に行われたグループワークでは、参加者が4つのテーブルに分かれて意見を出し合い、玉造 陽也さん(応用化学・バイオサイエンス専攻 1年)と渡辺 比呂さん(応用化学・バイオサイエンス専攻 1年)等、各グループのファシリテーターが意見をまとめて発表。総合会社者が総括を行いました。



KAIT BLUEの学生が少年補導員対象のサイバー防犯研修で講師を務めました

2023年11月20日に厚木警察署で行われた厚木市、海老名市、座間市、大和市で活動する少年補導員を対象とした研修で、本学の学生自主防犯ボランティア団体KAIT BLUEのメンバーが講師を務めました。

この研修は、県央地区少年補導員連絡会が主催で、県央地区の少年補導員を対象に行われているもので、今回はSNS等を使った犯罪が増加しており子どもたちの被害を防ぐために、「子どもたちが利用するアプリの特性や危険性について」と題して研修を行いました。KAIT BLUEのメンバーは、FreeWi-Fiの危険性や、SNSの特徴、使用上の注意点など、若者が陥りやすいネット上の危険性について、わかりやすく少年補導員の皆さんに話しをしていました。



情報工学専攻の大学院生が電子情報通信学会ネットワークシステム研究会で若手研究奨励賞を受賞

大学院情報工学専攻2年の伊藤 悠真さんが、2023年11月21日に電子情報通信学会ネットワークシステム研究会で「SRv6インラインサービスチェイニングを用いた8K非圧縮ライブ映像処理の実現」を講演発表した結果、若手研究奨励賞を受賞しました。

若手研究奨励賞は、ネットワークシステム研究専門委員会が主催する第一種研究会において行われた若手研究者による奨励講演の内、特に優秀であり今後の活躍が期待できると認められた奨励講演の発表者に対して贈られる賞です。若手研究奨励賞の対象発表のうち、概ね10%程度に授与されています。



受賞した伊藤さん(中央)

かながわビジネスアイデアコンテストで大学院生がリバネス賞を受賞

2023年11月23日に開催された「かながわ学生ビジネスアイデアコンテスト」で、大学院博士前期課程 ロボット・メカトロニクスシステム専攻1年の佐々木 勇輝さんが、「大人も子供も学べるロボット塾」というテーマで発表を行い、革新性に優れたビジネスプランを提案した学生に送られる賞の「リバネス賞」を受賞しました。



受賞した佐々木さん

このコンテストは、神奈川県内で起業を考えている学生が参加するコンテストで、今回は48名の応募がある中、佐々木さんは選考でファイナリストの9名の一人として選ばれました。

23日はこの9名による発表が行われ、佐々木さんは大人も子供も学べるロボット塾、特に家族で学べるロボット塾を提案しました。

大学院機械システム専攻の学生が情報処理学会研究会で受賞

大学院機械システム専攻博士前期課程1年の谷口 祐一さん(指導教員 脇田敏裕教授)が、2023年11月に開催された情報処理学会第95回高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会において「奨励発表賞」を受賞しました。

発表は自律移動モビリティと歩行者に関する研究です。近年配送や清掃などの自律移動ロボットが普及しつつありますが、本研究ではそれらのロボットと歩行者の双方が安全に走行できるように、特殊なスピーカを用いた新たな情報提示法を提案しました。

なお本研究は、本学先進技術研究所第3期テーマ「KAITモビリティリサーチキャンパスの構築」として実施され、谷口さんは中心メンバーの一人として活躍しました。今後のさらなる活躍が期待されます。

■発表題目

谷口 祐一、四辻 拓巳、井本 昂汰、爲我井 和希、小宮 聖司、脇田 敏裕(神奈川工科大学)
「歩行者と協調的な自律移動モビリティ ーパラメトリックスピーカを用いた個別情報伝達ー」



受賞した谷口さん

棋道部の学生が日本将棋連盟初段の免状を取得しました

棋道部部長の吉田 友太さん(応用化学科3年)が、日本将棋連盟初段に昇段し、免状を取得しました。

日本将棋連盟の初段は、中級者になるための一つの区切りと言われるもので、吉田さんはAIに棋譜を読み込ませて過去の対戦で打った手を反省するなど、初段を目指して日ごろから鍛錬を続けてきました。

吉田さんが所属する棋道部は現在部員12名。先日12月3日に行われた関東大学将棋連盟の秋季団体戦C1組で参加大学8大学中4位と善戦しています。



初段に昇段した吉田さん

看護学科の学生が人命救助活動で大和消防署より感謝状を授与されました

2023年12月7日、人命救助活動を行ったということで、看護学科4年の羽田 瑞穂さんに大和消防署より感謝状が贈られました。

車通学をしている羽田さんは、帰宅途中で倒れている人に遭遇。車を止め、通報しました。呼吸停止で脈をとれないことを確認。胸骨圧迫を行い、AEDを装着して、救急車の到着まで救急隊と電話でやり取りをしなが見守りました。

感謝状はこのような羽田さんの人命救助活動に対し、大和消防署より贈られました。



感謝状を授与された羽田さん

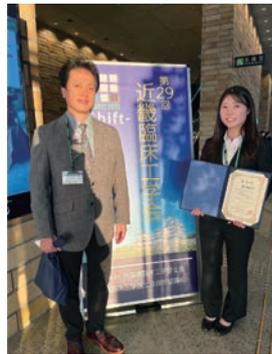
臨床工学科の学生が近畿臨床工学会で学生BPA 最優秀賞を受賞

2023年12月9～10日に開催された第29回近畿臨床工学会で、臨床工学科4年の榎田 麻衣さんが「学生BPA (Best Presentation Award) セッション」に採択され、発表し、「学生BPA 最優秀賞」を受賞しました。

発表は卒業研究の一部について行われたものです。

■発表タイトル

「3D-CADによる気管支病態モデルを用いたネブライザ投薬時の到達度評価」



受賞した榎田さん(右)と鈴木教授(左)

大学院生によるオンラインサイエンスカフェを開催しました

2023年12月13日、「サイエンスコミュニケーション」の授業を履修している大学院生が、わかりやすく楽しくサイエンスの話をする「神奈川工科大学 オンラインサイエンスカフェ」を開催しました。

今年で3回目の開催となり、応用バイオ科学科 客員教授 佐々 義子先生の指導のもと、大学院生がサイエンスに関する一般向けのテーマを考え、自分の研究にもつながるように工夫しながら、オンラインでわかりやすくお話をするものです。今回は厚木市の広報でも参加者を募集しました。

今回は学内外から約20名の方にご参加いただきました。質疑応答の時間ではそれぞれの発表者に対して、チャットを使って様々な質問が寄せられただけでなく、お子さんからのマイクをオンにして質問もあり、終始和やかな雰囲気で行われました。



当日の様子

本学学生がXR Kaigi Award 2023の「U-25ヤングスター部門」の最優秀賞を受賞

ホームエレクトロニクス開発学科3年の工藤 聖央さんと情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年の竹中 誠人さんが、12月20日から22日に渡って開催されたVR/AR/メタバースなどのバーチャル領域に関する国内最大規模のカンファレンス「XR Kaigi」に出展し、二人が開発した「TSUYAOTO Surround System」がこの度、XR Kaigi Award 2023 の「U-25 ヤングスター部門」の最優秀賞を受賞しました。

TSUYAOTO Surround System は、これまでVR空間の演奏の配信がモノラルやステレオであったものを独自技術で8chのサラウンド化を行い、臨場感あふれる演奏を多地点に配信するシステムです。



受賞した工藤さん(左)と竹中さん(右)

機械工学科佐藤研究室がロマンスカーミュージアムで「接続構造を用いた車両模型の走行実演」を行いました

2023年12月28日に、機械工学科 教育機械工学研究室(佐藤智明研究室)が、海老名市にあるロマンスカーミュージアム(小田急電鉄(株))で、「接続構造を用いた車両模型の走行実演」を行いました。

この実演は、ロマンスカーミュージアムとの博学連携、また研究室における教育用の機械、玩具の研究の一環として行われたものです。

佐藤研究室の学生たちが、ロマンスカーでかつて用いられていた車両間を連結する「連接車両」を、3Dプリンターを使って接続構造を強調した模型を作製し、プラレール上で走行実演しました。「接続構造」の説明についてのパネル展示も行われ、学生たちによる説明も行われました。

当日は年末ということもあり、たくさんの親子連れやロマンスカーファンでにぎわっていました。



当日の様子

Office Information

オフィスインフォメーション

経営管理本部

管財課

能登半島地震に伴うJHAT (日本災害時透視医療協働支援チーム)に支援物資の発送について

本学の臨床工学科科山家教授が事務局長をされているJHAT支援物資供給センター(金沢市)宛てに、1月12日にルヴァン・ビスコのお菓子類、パン・米粉ヌードルを段ボール18個にて届けております。本学の支援物資がどこよりも早く届いたとのこと。引き続き大学として、できる限りのご協力をさせていただき所存です。

学生支援本部

教務課

2024年度学年暦

本学ホームページの「2024年度年間スケジュール」にて、2024年3月18日から公開予定です。

<https://www.kait.jp/education/schedule/>

QRコードでも参照可能です。



※祝日の授業開講も予定しております。

保護者・保証人向けWEB成績閲覧環境について

2022年度より「保護者ポータルサイト」内で、学業成績表、時間割、対面式授業出席状況、学生掲示板情報などを閲覧いただけます。2023年度後期の学業成績表につきましても3月上旬より公開しております。この機会に「保護者ポータルサイト」をご活用ください。

※学業成績表の個別送付はいたしておりません。

ポータルサイトの「専用パスワード」を紛失された場合には、教務課あてにメールにて、ご連絡ください。

教務課 E-mail : kyoumu@kait.jp

教職教育センター

2024年4月～7月のスケジュール

- 4月
・教職課程ガイダンス
・教育実習ガイダンス
・教育実習予約・事前指導
・第3回全国模試
・前期対策講座開始
- 5月
・教育実習開始
・介護等体験ガイダンス
・第2回校内模試
- 6月
・第3回校内模試
・介護等体験実習開始
・教員採用試験直前対策講座
- 7月
・スターティングガイダンス
・教員採用試験(一次)
・一次合格発表
・二次試験対策

学生課

「令和6年能登半島地震」への本学の対応について

1月1日に発生した能登半島地震により、犠牲となられた方々におくやみを申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

学生課では災害救助法が適用された市町村に実家のある学生の安否確認、罹災状況の確認を1月2日より開始しました。学生の多くが帰省している時期の発災であったため大変心配されましたが、幸いにも本学学生およびそのご家族に人的被害はありませんでした。ただし、実家家屋に被害を受けた学生が数名確認されました。改めてお見舞い申し上げます。

これら被害を受けた学生に対しては、被害程度に応じた本学独自の支援を行うとともに、日本学生支援機構による「JASSO災害支援金」を紹介し支援を行いました。

2024(令和6)年度父母説明会について

コロナ禍により中断していた各都市で開催する地区別の父母説明会の実施もふくめ、本学を会場として行う父母説明会について、2024年度は全面的に対面形式で実施する計画で準備を進めています。詳細が確定次第、大学ホームページ等を通じてご案内申し上げます。本学の教育、学生支援の取り組みについて直接説明申し上げ、理解を深め合う有意義な機会となりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

キャリア就職課

4月以降の就職活動支援

■2025年卒(学部4年生、院2年生)対象

2025年卒対象に、4月以降も個別の企業説明会を学内対面およびオンラインで実施する予定です。参加企業情報などの実施スケジュールについては、進路希望登録時(求職登録: KAIT Careerから)のメールアドレスに配信しますので、是非登録確認をしてください。

■2026年卒(学部3年生、院1年生)対象

4月より、2026年卒(学部新3年生、院新1年生)を対象に就活セミナーを実施します。前期就活セミナーは対面およびオンライン形式にて開催します。その他、特別編の講座についても企画しております。是非参加してください。(医療系学科(看護学科、臨床工学科)については別途実施)

KAIT Career(本学学生の為の就職情報サイト)からの情報収集を積極的に行い、キャリア就職課からの様々な告知のメール配信を見逃さないようにしましょう。

看護生涯学習センター

2023年度 認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セカンドレベル修了式

看護師経験5年以上の看護職の継続教育機関として、2019年度より、認定看護管理者教育課程(ファーストレベル)を開始し5年目となります。また、今年度より、認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)も開始いたしました。セカンドレベル第1期生となる受講者17名、ファーストレベル第5期生となる受講者48名の修了式をそれぞれ挙行致しました。セカンドレベルは4か月間、ファーストレベルは3か月間の研修を無事に修了しました。

修了式には、小宮学長より各自に修了証書が授与されました。小宮学長、尾崎常務理事、新実センター長より式辞が述べられ、修了者の代表者から謝辞が述べられました。

仕事と両立し週末2日間の研修は、多くの課題に苦慮している看護管理者の動機付けになりました。

本研修は、例年看護学科の実習病院からも多く受講頂き、看護学科の臨地実習、授業を支える力となって頂いており、今後更にネットワークが広がることが期待されます。

ファーストレベルは5年間で194名、セカンドレベルは17名が修了されましたが、リーダーナースとして、看護管理者として今後ますますのご活躍が期待されます。

第45回後援会総会報告

今年度の後援会総会は、幾徳祭(学園祭)初日の11月4日(土)に、4年振りに対面形式で開催いたしました。コロナ禍により不自由な学生生活を余儀なくされておりましたが、「ポストコロナ期」を迎え、これまでの不自由な学生生活を取り戻すだけでなく、より楽しく充実した学生生活を実現するために「学会参加のための支援事業」、「クラブ活動やサークル活動の活性化のための課外活動支援事業」、「学食補助などによる健康支援事業」等々、後援会各種事業計画にご理解とご賛同を頂きました。また、これらの事業がより効果的に機能し、学生生活が更に充実したものとなるよう貴重なご意見も多数頂戴しました。誠に有難うございました。改めて御礼申し上げます。来年度におきましても引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2022年度決算報告書(2022年4月1日より2023年3月31日まで)

神奈川工科大学後援会
(単位:円)

収入の部

科目	予算	3月末実績
一般収入	[75,015,000]	[74,910,000]
入会金	(3,465,000)	(3,480,000)
会費	(71,550,000)	(71,430,000)
寄付金収入	[0]	[0]
受取利息収入	[500]	[901]
雑収入	[0]	[0]
収入合計	75,015,500	74,910,901
前期繰越金	[45,000,000]	[71,622,320]
収入の部合計	120,015,500	146,533,221

支出の部

科目	予算	3月末実績
総務部	[7,120,000]	[2,316,824]
教務部	[22,900,000]	[9,440,794]
厚生部	[88,495,500]	[56,683,583]
予備費	[1,500,000]	[0]
支出合計	120,015,500	68,441,201
次期繰越金	[0]	[78,092,020]
前期繰越金	(0)	(71,622,320)
当期剰余金	(0)	(6,469,700)
支出の部合計	120,015,500	146,533,221

2024年度予算(2024年4月1日より2025年3月31日まで)

神奈川工科大学後援会
(単位:円)

収入の部

科目	2023年度予算	2024年度予算案
一般収入	[75,015,000]	[74,334,000]
入会金	(3,465,000)	(3,444,000)
会費	(71,550,000)	(70,890,000)
寄付金収入	[0]	[0]
受取利息収入	[500]	[500]
前期繰越金	[71,622,320]	[78,092,020]
収入の部合計	146,637,820	152,426,520

支出の部

科目	2023年度予算	2024年度予算案
総務部	[7,120,000]	[7,120,000]
教務部	[32,900,000]	[35,700,000]
厚生部	[104,800,000]	[107,800,000]
予備費	[1,817,820]	[1,806,520]
支出の部合計	146,637,820	152,426,520

2024年度神奈川工科大学後援会役員

(任期:2024年4月1日~2025年3月31日)

役職	氏名	学科
会長	松尾 留美子	情報メディア学科
副会長	中島 隆征	応用化学科
副会長	佐々木 美紀	応用バイオ科学科
監事	伊藤 順子	ホームエレクトロニクス開発学科
理事	木村 慎吾	情報工学科
理事	川村 昌寛	情報メディア学科
理事	鎌田 雅美	電気電子情報工学科
理事	三井 庸都里	臨床工学科
理事	田中 光一	情報工学科
理事	古淵 良行	情報工学科
理事	半田 康人	情報ネットワーク・コミュニケーション学科

神奈川工科大学学内役員

役職	氏名	担当
顧問	小宮 一三	学長
//	谷村 浩二	専務理事
常任理事	塩川 茂樹	学生部長
//	尾崎 亮典	常務理事・教務担当部長
//	中込 寛	常務理事・キャリア就職担当部長
//	星野 潤	財務担当部長
//	鈴木 隆	理事・学生担当部長

<創立60周年記念>

幾徳学園創立60周年記念および中部奨学会 創立70周年記念祝賀会を挙行了いたしました

2023年11月29日(水)、ホテルニューオータニ 鳳凰の間において、学校法人幾徳学園創立60周年および公益財団法人中部奨学会創立70周年を記念した祝賀会を挙行し、大学・高等学校、企業の皆様、本学園および中部奨学会と関わりのある皆様をお招きし、学園および中部奨学会の関係者とあわせて200名を超える方々にご列席いただきました。

祝賀会では、両法人の理事長を務めます 中部謙一郎理事長からの御挨拶をはじめに、本学園の創立に深く携わられました塩水港精糖株式会社 代表取締役会長 久野修慈様、デジタル大臣・衆議院議員 河野太郎様(ビデオメッセージ)、衆議院議員 義家弘介様、参議院議員 松沢成文様、厚木市長 山口貴裕様、そして前青森大学副学長でありジャーナリストの見城美枝子様よりそれぞれ御祝辞を頂戴いたしました。つづいて、鹿島建設株式会社相談役 渥美直紀様より乾杯のご発声をいただき、会場内のスクリーンでは本学の紹介映像や、海外協定校9校よりいただいたお祝いのメッセージが紹介されました。また、マルハニチロ(旧大洋漁業)株式会社とゆかりのある本学ならではの来賓として、横浜大洋ホエールズ(現 横浜DeNAベイスターズ)などプロ野球でご活躍された方々が紹介されるなど、盛大な祝賀会となりました。最後に、小宮一三 神奈川工科大学学長より、ご列席いただいた皆様への謝辞が述べられ閉会となりました。

幾徳学園創立60周年および中部奨学会創立70周年を記念したこの度の祝賀会にあたり、ご列席賜りましたこと、またお祝いの生花や祝電を頂戴いたしましたこと、心より厚く御礼申し上げます。



中部謙一郎理事長



懇談する小宮一三学長

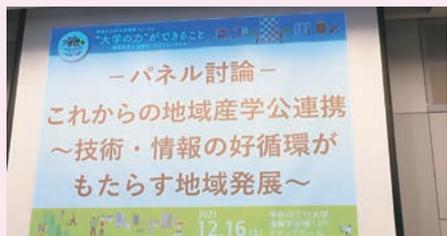
<創立60周年記念、研究推進機構創立15周年記念>

神奈川工科大学研究フォーラム “大学の力”ができること ～地域産学公連携のこれまでとこれから～を開催

2023年12月16日(土)、神奈川工科大学研究フォーラム「大学の力」ができること～地域産学公連携のこれまでとこれから～を開催しました。

小宮一三学長の開会の辞に続き、厚木市長 山口 貴裕氏よりご挨拶をいただきました。基調講演では、神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC)理事長の北森 武彦氏に、特別講演

では、NTT 人間情報研究所 研究主任の長谷川 拓氏にご登壇いただき、最新技術をご紹介いただきました。続いて、本学研究推進機構 機構長の脇田 敏裕教授(工学部 機械工学科)が、「神奈川工科大学における研究の歩みと今後の展開」について講演し、今後は社会の課題や成長・地域発展のことを考えて共創していく研究を進めていきたいと力強く語りました。



主催 神奈川工科大学
後援 厚木市、厚木商工会議所、神奈川県立産業技術総合研究所

神奈川工科大学 読書コンテスト2023開催

神奈川工科大学「読書コンテスト」は、学生の主体的な学びへの励まし・支援を目的に、読書感想文による文章作成および、プレゼンテーションの表現力で審査を行うコンテストです。

10年目の節目となる今年度も、一次審査(読書感想文)で選出された学生により、動画配信によるプレゼンテーション(最終審査)が行われました。動画は、2023年10月16日～20日の期間公開され、学長賞、図書館長賞ほか、各賞が決定しました。また、今年度は学生、教職員の投票による「プレゼン総選挙」という、新たな試みもありました。入賞した学生には、記念のトロフィー、盾が贈呈されました。

- 〈審査結果〉
- 学長賞
初山 航太さん(情報メディア学科3年)
 - 図書館長賞/特別賞
小林 果梨さん(応用化学科2年)
 - 紀伊國屋書店賞
浅野目 悠貴さん(情報メディア学科4年)
有馬 大貴さん(情報工学科3年)
 - 優秀賞
塩野 皓太さん(電気電子情報工学科1年)
樽谷 遼太郎さん(電気電子情報工学科2年)
山口 虎太郎さん(情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年)
八谷 俊太郎さん(情報工学科4年)
大野 優太さん(応用バイオ科学科1年)



創立60周年ロゴマーク

創立60周年を機に策定した記念ロゴには「大学をとりまく地域社会や地球環境とともに進化・成長する」という、「未来」に向けた神奈川工科大学の想いと決意が込められています。

また、本学の設立者である中部謙吉とゆかりのある大洋漁業(現マルハニチロ)株式会社、大洋ホエールズ(横浜DeNAベイスターズ)からクジラを「はじまり」のモチーフとして取り入れました。